

韓国美容医療研修スケジュール(2025 年 5 月 19 日～21 日)

日付	時間	内容	備考
5 月 19 日	09:00	日本出発（羽田空港）	フライト：約 2～3 時間
12:00	韓国到着（仁川または金浦空港）	入国手続き	
14:00	Grovi Clinic 到着	カウンセリング術前検査	
18:00	Willbe Clinic 見学	施設・手術環境の視察	
19:00	食事会	関係者との交流も兼ねて	
21:00	ホテルチェックイン	ソウル市内ホテル	
5 月 20 日	09:00	Grovi Clinic 到着	手術見学
午前中	■ 脂肪豊胸（脂肪吸引～注入）手術見学	各工程の詳細観察	
昼前後	■ 額脂肪注入見学	定着技術や注入量の考察	
午後	■ 鼻整形（隆鼻・鼻尖形成等）手術見学	切開範囲、固定技術の確認	
21:00	ホテル帰着		
5 月 21 日	10:00	Grovi Clinic 到着	術後経過確認
16:00	韓国出発	フライト：約 2～3 時間	

韓国美容医療研修を終えて

L' amour clinic Tokyo 院長 片岡

2025 年 5 月 19 日から 21 日にかけて、韓国・ソウルにて行われた研修に参加し、Grovi Clinic および Willbe Clinic を訪問しました。今回の研修は、脂肪豊胸・額脂肪注入・鼻整形など多領域の施術をライブで見学しながら、韓国美容医療の先進技術や哲学に触れる貴重な機会となりました。

■ はじめに: 美容医療の最前線、韓国の地へ

美容医療の世界において、韓国は間違いなく“技術革新の震源地”の一つです。特に顔面輪郭形成や注入技術、ナチュラル志向の施術設計においては、世界的に見ても非常に高い評価を受けています。今回の研修では、理論ではなく“実際の現場”で何が行われているかを肌で感じ取ることが最大の目的でした。これまでに得た知識と経験をいかに再構築し、患者様にとってより有益な形で昇華できるか。その視点を強く意識しながら渡航しました。

■ Grovi Clinic での学び: 脂肪移植技術の精密さと哲学

韓国における脂肪移植技術の進化は、単なる美容医療の枠を超えて“再構築型医療”としての位置づけを確立しつつあります。Grovi Clinic で見学した脂肪豊胸・額脂

肪注入・鼻整形の各施術は、単なる手技の洗練ではなく、一貫した美的信念と臨床理論の上に構築された“体系化された技術”であることを痛感しました。

◎ 脂肪豊胸の現場から：吸引～注入の全工程

脂肪豊胸術においては、「脂肪吸引」から「精製」「注入」までのすべての工程において、**患者ごとの体質・部位特性・皮膚弾性**に応じた個別設計が徹底されていました。吸引時には、部位に応じてカニューレ径や開口数を使い分け、採取部位ごとの線維質の違いを踏まえた吸引速度の調整も行われていました。特に印象的だったのは、**吸引段階からすでに「注入に適した脂肪を意識した取り方」**がされているという点です。

さらに、遠心分離の工程では、**純粹脂肪・血液・麻酔液**を段階的に分離したのち、再度ガーゼパックによる脱水を加える**二重精製法**を採用。これにより、水分含量を最小限に抑え、生着率を高めると同時に**脂肪囊胞の発生を予防するアプローチ**が印象的でした。

注入時には、**浅層・中層・深層**を区別し、それぞれ異なる量・圧・角度での挿入を行っており、ただの“ボリュームアップ”ではなく、「**触感の自然さ**」「**動きに伴うシルエット変化**」まで計算されていました。この一連の操作は一見すると複雑ですが、彼らにとってはルーチンであり、それこそが Grovi が誇る**再現性の高い技術**だと感じました。

◎ 額脂肪注入：ナチュラルフェミニティの演出技法

額部の脂肪注入は、日本ではヒアルロン酸での施術が一般的ですが、Grovi では“**定着と自然さ**”を重視した脂肪注入が主流です。特に「**丸みと緊張の両立**」というテーマ

が繰り返し登場し、額部に必要なのは単なる膨らみではなく、**眉上部のなだらかさ・生え際ラインとの調和**まで含めた全体設計であると強調されていました。

施術では、中央・側頭・移行ラインにそれぞれ別の深度でカニューレを進めており、骨膜下と皮下に脂肪を“層ごとにマイクロボラス状”に配置。特定部位では糸状注入を用いて“引っかかり”を避けながらも立体的な張りを持たせるという**テクスチャー設計の意識**が随所に見られました。

さらに、印象に残ったのは、施術後の冷却方法においても単に腫れを抑えるのではなく、「**圧迫と定着のバランスをとる**」ために局所的なクーリングマスク＋間欠的な指圧が導入されていたこと。**定着率の向上とアーティスティックな仕上がりの両立**に向けた、細部へのこだわりに強く感銘を受けました。

◎ 鼻整形：構造を理解した立体形成

鼻整形の現場では、術式の選択そのものが「鼻だけ」で完結していない点に驚かされました。Grovi の医師は術前に必ず**眉間～唇～顎先の E ライン確認**と、**笑顔時の筋肉移動評価**を行い、それをもとに隆鼻の角度や軟骨量、鼻柱の延長有無を設計していました。

隆鼻に使用される軟骨（耳介軟骨や肋軟骨）の形状形成では、**従来の厚切り移植ではなく、薄層積層法（ラミネート構造）**が採用されており、見た目の自然さと術後の圧迫への強度を両立していました。縫合技術も精密で、特に鼻尖部の安定化においては「**二重縫合＋クッション固定**」によりダウンタイム中の軟骨のずれを最小限に抑えていました。

また、術中に血管マッピング技術を導入し、皮下剥離を最小限に保ちつつ、表皮壊死のリスクを低減する工夫が施されていた点も非常に印象的でした。これは、日本の症例においても特に高齢者や再手術例において応用が可能と感じ、今後の実践に活かしたい要素のひとつです。

◎ 日本への応用と課題

今回 Grovi で学んだ技術は、そのまま日本で展開するにはいくつかの課題が伴います。具体的には以下の点が挙げられます：

- 日本人の保険制度下でのコストバランス
- ダウンタイム許容度の文化的違い
- “自然な変化”に対する審美感のギャップ

しかし、だからこそ重要なのは、「技術だけをコピーするのではなく、哲学を理解し、日本人の価値観に適応する形で再設計する」ことです。Grovi の医師たちが口にしてた“技術の輸出ではなく哲学の共有”という言葉は、まさにその本質を突いていると感じました。

全体として、Grovi Clinic での 3 つの施術見学は、私の医師としての視座を広げるだけでなく、美容医療のあるべき未来像を見せてくれたと感じています。この学びを L' amour clinic Tokyo に持ち帰り、より自然で、より長く愛される医療の提供へと昇華させていく所存です。

■ Willbe Clinic 見学：再現性を支える“教育力”

夕方には Willbe Clinic を訪問し、院内の手術環境や最新機材の整備状況を視察しました。

今回の訪問を通じて、今後フェイスリフト手術および顎下縫縮手術のライブ見学機会も頂けることとなりました。これは、L' amour clinic Tokyo にとっても大きな転機となるでしょう。これらの手術は顔面輪郭や下顔面のたるみに対する根本的アプローチであり、当院の「切らない治療」から「必要に応じて切る選択肢」までを包括的に備える方向性において、重要な学習機会です。

単なる施術提供者から、“教育者としての医師像”へと進化する必要性を痛感するとともに、国際的な学術交流を通じた技術の習得と伝承が、今後の医療において極めて重要であると再認識しました。

■ 韓国美容医療から学んだ本質

今回の韓国研修で得た最も大きな学びは、「美容医療とは、単に変えることではなく“整える”こと」だという基本に立ち返る気づきでした。

多くの韓国医師が口にしていた言葉があります。

「患者様の顔に“何を足すか”ではなく、“何を残すか”を考える。」

これは非常に深い言葉です。ときに手術とは「引き算の芸術」であり、情報過多な時代において医師こそが“選択のフィルター”でなければならない。そういった職責の重さと美意識の両立が、韓国美容医療の根幹に流れていると感じました。

■ 今後に向けて:L' amour clinic での実装

L' amour clinic Tokyo では、これまで“切らないリフトアップ”を軸に、糸リフトや脂肪吸引、ヒアルロン酸注入などの非侵襲的技術を中心に展開してきました。今回の研修を経て、これらの施術に対する精度・美的設計・症例管理のすべてを再検証し、次の段階へと昇華させていきます。

また、今後は院内スタッフ全員が技術だけでなく「患者様への共感力」「美的センス」「経過管理の哲学」までを共有できる教育体制を強化し、“施術後の人生に寄り添う医療”を実現していきたいと考えています。

■ 最後に

今回の韓国研修は、私個人にとっても、L' amour clinic 全体にとっても、大きな転機となりました。技術の追求はもちろん、美容医療における“倫理と審美の均衡”という原点に立ち返る旅だったとも言えます。

この経験を胸に、今後も「日本人の美意識に合った、丁寧で誠実な美容医療」を追求し続けてまいります。